

1 報告の趣旨

緑ヶ丘公園エリアビジョンに基づき、少年院跡地を含む緑ヶ丘公園エリアの魅力向上に向け、帯広市児童会館及び帯広百年記念館のあり方の検討を進めてきました。今後、長寿命化の可能性や施設機能についての検討にあたり、現施設の課題と検討の視点などについてお示しするものです。

2 両施設の役割

- 両施設は緑ヶ丘公園内に建設され、開館以来、公園内の公共施設と連携しながら、多様な学習機会や情報の提供等を通じ、市民の学びを支援してきました。
- 児童会館については、「見て・触れて・ためす」のコンセプトのもと、体験型展示等を通じ、子どもから大人まで科学に対する興味や知識を深める機会の提供や、宿泊施設を併設した科学館として宿泊学習等を通じた学習機会を提供してきたほか、遊び場の併設により子どもたちの成長を支援する役割を果たしてきました。
- 百年記念館については、博物館機能のほか、陶芸、演奏、演劇、絵画などの創造活動センター機能をもって、地域の歴史継承及び文化芸術活動の拠点としての役割を果たしてきました。

3 両施設の現状と課題等

(1) 利用状況（令和元年度以降）

両施設とも新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた令和2年度に利用者数が大きく減少しました。

児童会館については、令和3年度の新たな遊び場の開設や令和6年度の60周年記念事業等により増加しています。

百年記念館については、令和4年度の特別企画展「晩成社展」等、多くの集客が見込める事業等により回復してきています。

	両施設の利用者数	
	児童会館	百年記念館
令和元年度	133,335	105,546
令和2年度	50,476	47,962
令和3年度	115,361	53,397
令和4年度	183,062	70,113
令和5年度	280,065	72,270
令和6年度	327,213	78,953

単位：人

(2) 施設の課題と取り巻く状況

ア 児童会館

築60年を経過した建物や設備への対応のほか、利用者の増加に伴う遊び場の狭隘化や、新たな科学展示スペースの確保が難しい状況です。また、展示物については周年事業等において段階的な更新をしているものの、設置から長年経過している展示物もあります。

利用者からは、デジタル技術等を活用した体験型展示の充実や、科学展示室等へのエアコン設置の要望のほか、駐車場から施設までは約250mの坂道であるため、アプローチ環境改善の要望が寄せられています。

イ 百年記念館

築40年を経過した建物や設備への対応のほか、利用者からは、郷土の歴史や自然、農業をはじめとした産業等に関する学びの充実や、芸術に触れる環境や機会の拡充について要望が寄せられています。

また、これまで取り組んできたデジタル化や文化観光の推進については、令和4年に改正された博物館法においても重点事項と位置付けられ、博物館が地域の活性化に貢献することが期待されています。

4 検討の視点

現施設の役割や現状と課題を踏まえ、以下の視点を持って検討を進めます。

- 時代や社会の変化（人口減少やデジタル化の進展、博物館法の改正など）
- 市の財政状況と公共施設マネジメント（長寿命化、複合化、公民連携など）
- 地域ならではの価値や強み（歴史や自然、開拓精神、食と農業など）
- 周辺環境とウェルビーイング（緑ヶ丘公園エリア内の公共施設との連携、施設の利用のしやすさ、快適性など）

十勝・帯広の特色を学び、体感することができるとともに、より多くの市民が利用し、地域が誇れる拠点となる視点を持ちながら、引き続き施設のあり方を検討していきます。

5 今後の主な検討事項

- 今後の施設整備に係る検討材料の整理
(施設の現状と長期使用の可能性を調査、施設の建て替えの事業費を試算)
- 今後の施設機能の整理
(拡充する機能、現状維持する機能、縮小・廃止する機能)
- 施設形態・規模と整備スケジュールの整理
(長寿命化・改築、(建て替える場合は)複合・単独など)
- (建て替える場合は)具体的な建設候補地の検討
(少年院跡地を含む緑ヶ丘公園エリア内)
- 建築や管理についての公民連携の可能性などの運営手法を検討
(PFI、指定管理、直営管理などの方式検討)